

昌壽院

おてらだより

曹洞宗 昌壽院
〒621-0814
亀岡市三宅町 95
TEL 0771-22-2350
<https://shojuin.jp>



お寺×SDGs 「絵本を届ける運動」に協力

去る令和3年4月8日（木）、昌壽院本堂にて「絵本を届ける運動」に取り組みました。当日は、梅花講の講員さん方を中心にご参加いただきました。

「絵本を届ける運動」はシャンティ国際ボランティア会が行っている活動で、日本の絵本に翻訳シールを貼り、教育環境のととのっていない国や地域に届けるものです。

SVAは、もとは曹洞宗のお坊さんが中心になって立ち上げた団体です。昨今、SDGs（エスディージーズ（持続可能な開発目標））に対する関心が高まり、企業や行政などでさまざまな取り組みが行われています。お寺でも、SDGsに関連した活動ができないかと思い協力することになりました。

翻訳シールをハサミで切り取り、日本語の本文の上に貼り付けるのですが、油断をすると、シールが歪んだり、シワが入ったりしてしまいます。また、翻訳の現地語が、まったく読めないもので、貼り付けるページや場所を間違える可能性もあります。初めての作業でしたので、慎重に行いました。



4種類の絵本に翻訳シールを貼りました。新品の本を現地に届けます。



コロナ禍のため、マスク着用で作業しました。みなさんと絵本を片手に集合写真。



慣れてくると、手際よくもよくなってきたスピードアップ。最後に現地語（今回はビルマ語）で作業を担当した人の名前を書いて完成です。10冊の本を仕上げました。

今回作業した絵本は、タイにあるミャンマー少数民族の難民キャンプ

とミャンマー本国に届けられる予定です。

当日は、4月8日のお釈迦様の降誕会。そして、小学校の入学式の日もありました。日本では絵本を読んだり、学校に行くことはあたりまえのこととて、そのありがたさを感じないことも多いのですが、世界に目に向けるとけつして「あたりまえ」ではないことが分かります。すべての人たちが等しく尊ばれて、その力を十分に発揮できる環境ができれば素晴らしいと思います。

日本国内にも解決すべき課題はたくさんありますが、今回は、世界の子どもたちに思いをはせて、取り組みました。

ご参加の皆さんありがとうございました。

地藏堂前に春日灯籠を

ご寄進いただきました。

この七月に紺屋町・並河和夫・礼子氏より「春日灯籠」一基をご寄進いただきました。誠にありがとうございました。

ご両親の年回法事をむかえるにあたり、その菩提供養としてお申し出がありました。地藏堂と庭とのバランスを考慮して配置していただき、庭がぐっと引き締まったように感じます。心より感謝申し上げます。



昌寿院ウェブサイト・少しずつ更新中。
「亀岡市 昌寿院」で検索★

和やかな食事が懐かしい。 永平寺は「黙食」が基本!?

コロナ禍二度目の夏を迎えました。早い終息を願っていましたが、長丁場になりそうです。皆さんの暮らしにも様々な影響が生じているかと存じます。健康を第一に考え、無理せずにできることを続けてまいりましょう。

* * *

先日、小学三年生の娘が「小学校の運動会、まだ一回しかしてないわ」と話していました。昨年、亀岡小では、運動会が中止となり、代わりに学年別の「体育的行事」が実施されました。今年も昨年同様とのこと。修学旅行がなくなった学校や、音楽祭が中止になるなど、寂しい状況です。小学校では、一日中マスク着用で、休み時間の遊びも制限される。おまけに給食は前を向いて黙って食べるとのこと。「楽しい給食」とは程遠い状況が一年以上続いています。コロナ禍において大人の羽目を外した会食問題の報道をみると、なんとも情けない気がします。

* * *

コロナ以降「三密」「人流」「新しい生活様式」などの新語が生まれました。「黙食」という言葉もその一つ。実は永平寺などの修行道場では古くから食事中は「黙食」がルールです。三黙道場といい、「トイレ・坐禅堂・風呂」は私語厳禁です。

いずれもリラックスしたい場所ですが、修行中はそれを禁じています。

曹洞宗をひらかれた道元禪師は、日常のすべてが、仏道修行であると考えました。沈黙により、自分の行いに集中し、自分自身に向き合う。一心に徹することの大切さを説かれました。

『赴粥飯法（ふしゆくはんぼう）』という書物に、食事中の器の並べ方や作法が細かく定められています。道元禪師は、生きていく上で欠かせない食事の重みを思い、黙って目の前の食事に向き合うことが、感謝の心を形にする真摯な態度であると示されています。

* * *

ある学校で、給食中に、おしゃべりできる「団らんタイム」と食事に集中する「食事タイム」をつくったところ、食べ残しが減ったそうです。コロナ前に食品ロス削減を目指し、取り組みが広がっていた「3010運動」も同様のことでしょう。話に夢中になりすぎて、食べ物を粗末にするということはやってしまいがちです。

* * *

みんなで同じものを食べ、会話を楽しみ、生きる力を得る食事は何物にも代えがたいものです。コロナ禍において、飲食業界は本当に厳しい状況だと思えます。私たちの日常生活においては、一日も早く「黙食」せずに、楽しく和やかに食事できる日が来ることを願っています。

住職 大井 龍樹 合掌